

沖縄の未来～アジアと日本をつなぐ ゲートウェイとしての沖縄の発展～

対談者 沖縄県経営者協会 会長 安里 昌利
内閣府 沖縄総合事務局 局長 河合 正保



沖縄県経営者協会 会長 安里 昌利



沖縄総合事務局 局長 河合 正保

新年明けましておめでとうございま
す。本年が、皆様方にとって実り多き
年となりますようお祈り申し上げます。

今回は、沖縄県経営者協会の安里昌
利会長をお迎えして、「沖縄の未来～
アジアと日本をつなぐゲートウェイと
しての沖縄の発展～」と題して、沖縄
の目指す姿などについて語ってもら
いました。

1 躍進する沖縄経済

○河合局長

本日は「沖縄の未来～アジアと日
本をつなぐゲートウェイとしての沖縄
の発展～」というテーマでお話しを進
めてまいりたいと思います。

まず、沖縄の経済と産業の状況につ
いてですが、基幹産業である観光は、
昨年の入域観光客数が過去最高を記録
し、特に外国からの観光客が大幅に増
えています。また、雇用面では完全失
業率、有効求人倍率が共に改善されて
きており、沖縄経済は勢いを増してい
ています。

2 観光客1000万人に向けて ～県民全ての力で～

○河合局長

今、観光のお話が出ましたけれど
も、平成33年までに入域観光客数

国際通りで大勢の観光客がお土産を手
に歩いている光景を見ると、沖縄の経
済に明るさが漂っていると実感します。
一部の業種で円安の影響を受けていま
すが、観光は裾野が広いので沖縄の経
済に好影響を与えていると思います。

○安里会長

当初、入域観光客1000万人構想
は、雲をつかむような目標というのが
一般的な見方でしたが、最近の伸び具
合を見ると、早々に達成できそうな期
待が持てるようになりました。今後の
取組みとしては、観光客のニーズをしつ
かりと捉える必要があります。例えば、
観光客の移動手段を見ましても、変遷
してきています。以前だと団体旅行が
主体でしたが、最近は、家族同士、友
達同士などレンタカーを使った小規模
の集団での旅行が主流です。この辺り
を観光業界、事業者又は行政側はしつ
かりと把握して的確な対策を講じてい
く必要があります。

また、急増している外国人観光客へ
の対応策についても重要なポイントで
ある形で観光客1000万人時代に向け
た取組を行っています。

ると感じますが、安里会長は現状をど
のように見ておられますか。

○安里会長

沖縄県にもアベノミクス効果が浸透

してきて、沖縄経済は順調に推移して
いると見ております。沖縄の経済に明
るさをもたらしているのは、やはり、
昨年度に約658万人と過去最高の数
字となつた入域観光客数の増加、何よ
りも外国からの観光客が大幅に伸びた
という効果が大きいと感じています。

国際通りで大勢の観光客がお土産を手
に歩いている光景を見ると、沖縄の経
済に明るさが漂っていると実感します。
一部の業種で円安の影響を受けていま
すが、観光は裾野が広いので沖縄の経
済に好影響を与えていると思います。

1000万人、そのうち外国客が
200万人、観光収入が1兆円とい
う目標を立てています。当初は難しいと
思っていた計画が、今では射程圏内に
入ってきました。観光産業の波及効果
は大きく、沖縄経済の動向を占う重要
な指標にまで成長しています。そうい
う意味で、今後、目指す観光の将来像
と目標に対しても、具体的にどう取り組
んでいくのかが重要です。

○安里会長

1000万人、そのうち外国客が
200万人、観光収入が1兆円とい
う目標を立てています。当初は難しいと
思っていた計画が、今では射程圏内に
入ってきました。観光産業の波及効果
は大きく、沖縄経済の動向を占う重要
な指標にまで成長しています。そうい
う意味で、今後、目指す観光の将来像
と目標に対しても、具体的にどう取り組
んでいくのかが重要です。

くことで、観光振興に貢献してまいりたいと思います。

また、インフラの充実も重要ですが、沖縄には離島など各地域には素晴らしい観光資源があり、魅力ある地域づくりも大切だと思います。地道ではありますが、映画によるまちおこしなど、各地域でいろんな新しい取組を行つております。国、県及び市町村関係者その他、地域の皆様と協力して進めてまいりたいと思います。

観光の振興については、1000万人に向けて観光客を増やすことと同時に、質の向上を図ることも重要な要素だと思いますが、今後どのような取組が必要でしょうか。

○安里会長

観光客1000万人に向けた計画では、一人当たりの消費額を増やすなどの観光の質を高めることも大きな課題となつております。そのためには、滞在日数を延ばしていくことが重要です。観光の形態は、観光地巡りに加えて体験型観光も徐々に増えていく予想されますので、各地域で体験型観光の工夫をしなければなりません。

また、私は国立劇場おきなわの運営にも携わっているのですが、国立劇場も観光スポットに位置付けて、沖縄の伝統文化である組踊を鑑賞してもらえば、深みのある観光になるんじゃないかなと思います。イギリスやイタリアではオペラ、スペインではフラメンコという具合に、それぞれの国を訪れる



一晩は鑑賞したくなります。そういう意味では、組踊鑑賞を観光ルートに組み入れて沖縄の文化を広めることは、質の高い観光へとつながっていきます。

その他、外国からの観光客が増えてることから、道路標識や観光案内板を多言語で表示する必要がありますし、語学に堪能な人材育成も行うべきです。沖縄の良さはおもてなしの風土というところなので、この辺りを県民一人一人が意識して観光客をお迎えすることを目標にしていきたい。

3 沖縄力を生かした成長戦略

○河合局長

国は、沖縄の優位性や潜在力を生かして沖縄を日本経済のフロンティナーとすべく、日本経済を引っ張つていく役割を担わせるという期待を持っています。以前のキヤッチャップ型の沖縄政策と比較すると、隔世の感がありますが、そうした役割を果たしながら沖縄が発展していくことについて、どのようにお考えでしょうか。

○安里会長

高い経済成長率を誇るアジア新興国が台頭してきている中、日本は、アジア新興国に隣接しているということでも、欧米などの他の国々に比較して、これらの国々との交流・交易を図る上で優位な状況にあると思います。その中でも、沖縄が地理的に東南アジアや中国などから優位な位置にあるとして、日本経済のフロントランナーとして期待されていることは、我々もあり

がたいと思っています。今後、アジア新興国の経済繁栄の恩恵を日本にもたらさなければなりません。そのためには、沖縄はその優位性を生かしながら成長戦略を捉えていくべきで、具体的には観光リゾート産業と国際物流拠点形成を強力に推進していくべきです。

○河合局長

沖縄総合事務局でも、「沖縄フロンティア戦略会議」を開催して、沖縄の持つ強みである「地の利」、「知の基盤」及び「地域資源」を最大限に生かして新たな産業を創出することに取り組んでいます。こうした中で、国際物流拠点産業は、観光産業とIT産業に続く新たな産業として非常に期待が大きいと思います。その一つの取組として、先般、「沖縄大交易会」が開催され、国内外の流通事業者等からも大変注目されたイベントでしたが、その辺りをお話しいただけないでしょうか。

○安里会長

沖縄大交易会は、沖縄21世紀ビジョンにおいて、アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成を掲げていることに呼応して沖縄県と沖縄県議会がタイアップして開催しました。その際は沖縄総合事務局からも後援をいたしました。このような施設を整備していく

日本製品は、東南アジアの国々から高い評価を受けています。そのような中で、沖縄大交易会は、日本製品を商談できる拠点整備という東南アジア側のバイヤーからのニーズと東南アジアのバイヤーに出会える場を探している日本側のサプライヤーからのニーズ、双方のニーズを捉えることで開催されています。

東南アジアの方々とお話ししていると、「沖縄には香港から2時間で行ける」、「東京まで行くのに4時間かかる」という具合に、東南アジアの方々が沖縄を見れば、沖縄は日本のゲートウェイとして認識していることを実感します。そういう意味で、沖縄はヒト、モノ双方の交流の拠点としての特性を秘めていますので、その特性を政策の中でも反映させることが重要です。

沖縄大交易会は、今回で2回目の開催でしたが、バイヤーとサプライヤーの間で継続交渉となつていて、かなりの数に上つており、今後もレベルアップを図りながら継続開催にしていきたいと考えています。

沖縄総合事務局でも、何かサポートを
できればと思い、事前の商談スキルセ
ミナー、そして香港向け「おとりよせ



4 沖縄の未来を担う人材育成

○河合局長

観光リゾート産業や情報通信関連産業、さらには国際物流関連産業などの沖縄の産業が発展していくためには、人材育成が大きな課題になると思います。安里会長は経済界の代表として人材育成にも積極的に取り組んでいます。人材育成に関するお聞きしています。人材育成に関するお聞きかせ現在の状況、課題等についてお聞かせ

○安里会長

○安里会長 ください。
ビジネスがグローバル化している中では、グローバル人材の育成が必要だと感じています。沖縄大交易会においても、バイヤーとサプライヤーが向かい合って商品を説明しているのです

○河合局長

人材育成に関しては、产学研官で取り組んでいる人材育成プラットホームがあり、当局も参画させていただいておりますが、産業を担うのは人ですから、人材育成は中長期的にしっかりと取り組んでいかなければならぬ重要な課題です。

○安里会長

人材育成は、企業の繁栄にも、地域

とで、全国的にPRできる効果もある
と思います。

また、各企業の皆さん、沖縄を拠
点にして東南アジアへのビジネスに使
えないかという経営判断をしてもらう
上でも期待しております。今後も是非、
その取組を強化していただきたい
と願っております。

○安里会長 沖縄力発見ツアーハーは、沖縄の持つ優位性・潜在力を本土の企業の皆さんに知つてもらうために非常に効果的な取り組みです。実は、沖縄の現状、例えば、OISTや沖縄国際貨物ハブの存在も、最近になって、やっと話題に上るようになり、沖縄力発見ツアーハーで本土の有力企業を見てもらうこ

かと願っています。企業側が社員を数か月単位の専任で学ばせることは難しいですが、その日の仕事を終えてから大学で語学研修やビジネスマインドについて学べるような体制が整えれば、企業側も大いに活用できるはずで

が、バイヤーが発音やなまりに気にせず、英語で話しているのを見て、自分の商品を通訳を介してではなく、自分の言葉で伝える必要性を実感しました。アカデミックな語学じやなくともいいから、ビジネスにつながるような会話ができる人材育成が必要です。

琉球大学が、地域が抱える課題の解決につながる優れた教育研究活動に対して人件費等の助成を受けることができるセンター「オブ・コミュニケーション(CO C)」という事業を文部科学省から受託しています。この事業では、地域振興に役立てようと、地域の人材育成を大学が担っていますが、私は、是非とも産業界の人材育成にも、例えば企業に在籍している若手社員が再度教育を受

の繁栄にもつながるので、企業の大きな使命であるということを、基本的な経営方針として企業経営者の皆さんに取り組んでもらいたいと願つております。各々の企業が様々な形で取り組んでいますが、ビジネスがグローバル化した時代には、語学や国際マインドを養うグローバル人材の育成に積極的に力を入れるべきです。

○河合局長

私は沖縄での勤務が3回目になりますが、沖縄は来るたびに元気になってしまいます。特に若い人が大変意欲的で、熱心に仕事に取り組んでいると感じます。これからは若い人の熱意を生かして産業界で活躍できる人材を育成していくことが、沖縄の発展につながっていくと思っています。

5 これから沖縄について

○河合局長

沖縄の振興についてお話をもらいましたが、10年後に沖縄がどのように発展して欲しいとの希望、又は夢をもつておられるかというところをお聞かせいただけないでしょうか。

○安里会長

沖縄が発展していくためには、沖縄が持つていてる特性をしっかりと理解した上で施策展開していく必要がありましたが、その施策としては、やはり観光や国際物流拠点形成の取組が重要だと思います。

アベノミクスの経済成長戦略に農水産物の輸出拡大があります。農水産物

となると、今の飛行機のみの沖縄国際貨物ハブ体制だけでは対応できません。船も使ったシー・アンド・エアの構築が必要になってしまいます。シー・アンド・エアを含めた物流拠点を整備することは、沖縄にとって大きな利益へとつながると思います。沖縄の経済界は、物流拠点形成を強力に進めていくべきと考えています。

○河合局長

沖縄は、将来に向けて発展の可能性を大に秘めています。今、お話しのあつた物流事業もそうですが、農林水産物やバイオ産業にしても、開発する余地は、まだあると思います。モノ作りも非常に重要な産業ですし、先程お話しのあつた人材育成も重要な課題だと思います。これからは、沖縄県全体で手を携えて沖縄経済の発展に取り組んでいくことが重要だと思います。

6 沖縄総合事務局に期待すること

○河合局長

今の中の沖縄の状況というのは、日本やアジアに何か貢献できる面が出てきたという意味で明るい将来展望が見え始めています。

沖縄総合事務局は、沖縄が本土に復帰した日に設置され、沖縄の発展のためいろいろと取り組ませていただき、それなりの役割を果たしてきたと思っていますが、沖縄のさらなる発展のために当局が取り組むべきテーマは、まだ残っています。例えば、那覇空港滑走路増設事業や中城港、宮古島

及び石垣島における港湾整備事業、産業の振興、昨年は国が設置する予定の多目的ダムもすべて完成しましたが、農業の分野では地下ダムを含む国営かんがい排水事業を進めております。また、駐留軍用地跡地利用といった大きなテーマもあります。

最後になりますが、当局に対しても期待することがあります。お聞かせ下さい。

○安里会長

日本経済が厳しい時期においても、沖縄については、潜在的な成長を続けていたと思っています。その辺りは、沖縄総合事務局がいろんな角度から沖縄振興策を展開していただいた成果だと感じています。沖縄経済界は、これまでの沖縄総合事務局の取組みに大変感謝いたしております。また、国と総合的な出先機関として局長を始め総合事務局の方々と身近に意見交換ができることは、大変ありがたいと思っています。

これからは、先程お話しした沖縄の国際物流拠点形成を国家戦略特区に位置付けてシー・アンド・エアが実現できれば、沖縄県の大きな発展、振興につながります。昨年の6月に琉球海運が台湾の高雄港に航路を開設しており、その高雄港はハブ港として機能しています。高雄港と連携すればシー・アンド・エアへの道が開けるのではないかと思います。沖縄は空港と港が隣接しているので、空港と港を併せた物流拠点を整備するの

高雄港と連携から始めて那覇港のガトリークレーンの整備を続けながら、最終的には那覇港もハブ機能を持たせることができればと思います。

○河合局長



本日は、貴重な機会を与えていただき、経済界の代表として感謝申し上げます。

○安里会長

今後とも、住みよい沖縄の未来をつくっていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひ致します。